

1. 評価結果概要表

作成日 2009年3月28日

【評価実施概要】

事業所番号	0872001201		
法人名	有限会社弥久		
事業所名	グループホーム 幸寿苑		
所在地	茨城県つくば市磯部15 (電話) 029-867-7651		

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市元石川町2523-3		
訪問調査日	平成21年3月13日	評価確定日	平成21年6月3日

【情報提供票より】(平成21年2月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年6月23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤8人, 非常勤 12人, 常勤換算 13.1人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,500 円	その他の経費(月額)	61,500 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1500円

(4) 利用者の概要(12月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名	
要介護1	1 名	要介護2	3 名			
要介護3	7 名	要介護4	4 名			
要介護5	3 名	要支援2	名			
年齢	平均	80.2 歳	最低	57 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	坂入医院	ホスピタル坂東	筑波記念病院	石浜歯科医院
---------	------	---------	--------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家庭的な雰囲気の中でその人らしい時間が過ごせるようケアを提供していくという考えで設立されたホームは、筑波山の麓、近くには水田、桜川と四季折々の自然が楽しめる。また当ホームは、医師との連携が強固となっており、24時間体制で利用者の健康を守っている。管理者はもとより職員のケアの質の向上に対する取り組みも特に強く、多くの研修に参加された報告書、伝達講習会の記録が保管され実践に生かすよう工夫されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	災害対策について、夜間を想定とした避難訓練を行い職員の危機管理意識の構築を図る取り組みに対し、消防署との避難訓練の定期的な実施とともに夜間職員が少ない状況設定での訓練が行われている。職員もその状況設定に対し訓練を重ね、熟知した状態で夜勤業務が行えるよう続けていきたいと話していた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者を中心とし全体のミーティングなどを利用し、外部評価の理解とともに自己評価項目の読み聞かせなどを行い、職員の意見を傾聴し外部評価に取り組みされていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2カ月に1度定期的に推進会議が行われ、議事録として保管されている。また推進会議では、積極的に地域や行政など施設外からの意見の収集に力を入れ、ホームの質の向上に努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見は、直接聴取する場面が多く、その意見は早めに解決し改善する努力と工夫が行われている。苦情処理用のファイルには、家族の細かな意見を記入し、その解決方法や改善の実施について、記録化され保存されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者が地域に対してのホームの啓発をこまめに行ったり、地域のイベントへの参加、またホームを地域へ開放し、イベントを開催するなど多彩に工夫し、地域との連携を強固にする工夫が行われていた。今では、地域住民がホームに立ち寄り、野菜を持ってきたりする、ご近所付き合いのような場面も見ることができた。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心感、自主決定、家庭的な環境の提供と、地域に開かれた施設を理念に、利用者の希望を中心にその人らしい生活が送れるようケアを提供している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、管理者を中心に職員に周知され、日常のケアや利用者とのコミュニケーションなど、直接的なかかわりをもって取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との連携に、管理者を中心として時間をかけ地域に溶け込み、地域に開かれた施設となっている。地域の住民が近所付き合いのように、ホームに訪れ談笑している風景が見られた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者から職員に対し、評価の意義や活用について説明され、職員もしっかりと理解された上で評価への参加取り組みが行われた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、定期的開催されている。また地域の参加者や行政からの意見など会議を利用し、ホームの質の向上に対する意見の聴取の場としても積極的に活用されている。		

茨城県 グループホーム幸寿苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	つくば地域密着型サービス連絡会に参加し、ホーム間での連携を図るほか、行政との連携も連絡会を通して積極的に行われている。管理者も行政に足を運ぶなどの取り組みも行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近況報告として、毎月利用者の写真を交えた手紙を家族に送付するなど、家族との連絡を絶やさないようにしている。また体調不良など緊急時には、電話連絡など手段を変更し、家族に報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は、近況報告時の手紙の返信なども利用し、家族の意見が定期的に聴取できるよう工夫されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は特に行っていない、馴染みの関係を維持できるよう心がけている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修のほか、外部研修も職員の希望で参加できるようになっている。また研修は、法人の補助もあり職員の負担を少なくし、学習できるよう配慮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと管理者同士の交流があり、他の事業所の見学などを通し、積極的に交流を深めている。また少数ではあるが、利用者同士の交流も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設するデイサービスを利用し、施設の雰囲気に馴染んでもらい入所に移行し、混乱を防ぐよう工夫されている。またデイを利用していない利用者については、必ず見学を実施し入居していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は女性が多く、料理や日常生活での昔の知恵など、利用者個人の生活史を踏まえ介護者と利用者の支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	買い物や外出など利用者の希望により提供されているほか、利用者の意見など、その時の天気や利用者の気分などを考慮し、思いや意向が積極的に取り入れられるよう工夫されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンスで、各職員の情報の共有を図り、ケアプランに生かされるよう、その時点での問題の解決に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題の解決と、家族の意見やケアに対する思いや意向など、利用者の希望を多く聞き入れ見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の場所や広さを生かし、地域住民を交えたイベントが行われている。またボランティアの参加も多く、利用者はもとより、地域にも開かれた事業所となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のもともとのかかりつけ医に、受診することが可能であり家族の送迎が困難な場合、事業所での送迎も可能となっている。時間等により有料の場合もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況に関係なく、利用者や家族の希望に応じて、終末期のケアを提供できるようになっている。書式などの準備が行われ今後家族の理解や同意、話し合いを持つ予定となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護に対するマニュアルを作成し、職員間で理解を深めている。書式などに関しては、書庫に保管するほか、鍵のかかる部屋での保管となっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、その人らしい生活を家庭的に送れるように、個人のアセスメント、生活史を理解し、利用者のペースでケアの提供を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、利用者とともに作り利用者と同じ空間と時間で、職員も楽しく会話を交えながら、明るい雰囲気の中か食事の援助がおこなわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	14時から20時までの間で、利用者の希望により入浴が可能となっている。また拒否的な利用者には、入浴時間が空かないように、適宜職員の言葉かけなどで入浴の支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活史を職員間で共有し、その人らしい生活を送れるよう楽しみ事や、利用者個々の役割の支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩はもとより、利用者の希望により、自然に囲まれた環境の中で、四季に合ったイベントを行い、利用者の外出の支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は行わず解放されたホームとなっている他、利用者の居室から自由に外へのアクセスが可能となっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	去年の外部評価の取り組んでいただきたい項目から、災害や緊急時に備えた訓練が定期的に行われ、職員も問題意識を持ちながら積極的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者個人の情報を詳細に記録し、見やすく整理されている。利用者の健康情報が分かりやすく工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、窓からの光で明るく温かな空間になっている。利用者は自然に共有空間に集まり、ほかの利用者と談笑する場面が多くみられた。	○	施設周辺の自然環境が豊かで、窓からの風景が四季を感じさせてくれる環境となっているが、共有空間にもさらに、四季を感じることでできる草花や、物品の設置に取り組んでいただきたい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者馴染みの物品を多く利用し、その人らしい空間が提供され、空調などの整備も各居室単位で調節が可能となっている。		